



平成 26 年 5 月
No. 48

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
巴会庶務担当 牧野 武彦 助教 Tel・Fax (052) 735-5367
ホームページ: <http://tomoe.web.nitech.ac.jp/>

巻頭言



巴会会長
松原 十三生 (S36)

今年には巴会が発足してから105年目の年に当たります。記録によれば、名古屋高等工業学校が創立されたのは明治39年4月で、これは明治時代の工業近代化政策にともない東京、大阪、京都に次いで4番目に設立された官立高等工業学校でありました。初代校長は土井助三郎で、最初は土木科、建築科、機械科、色染科の4学科でスタートしたときいています。

巴会は 機械科の第1回生が卒業した明治42年3月に立ち上げられ、以来延々と105年に渉り多くの有意な卒業生を輩出してきました。現在の機械工学関係の卒業生(名古屋高等学校、名古屋工業高等専門学校、名古屋工業大学、同短期大学部、同第2部等を含む)は11,400余名おられ、その内9,700名余りの方々が巴会会員となっております。

巴会発足以来105年間に、実に多くの先輩、後輩が国内国外で活躍されていることは誠に喜ばしいことで、巴の伝統を受け継ぎ、これからも続々と新しい分野や新しい領域を開拓して、優れた成果を世界に広めてもらえることと信じています。

今の時代は、膨大な情報を上手く集約し、その中から新しい分野や情報を得ることが求められ、これは正にクラウドの世界になりますが、これから何が出てくるのか楽しみであり、また不安もあります。

ところで、今年には冬期オリンピック、パラリンピック開催の年で、テレビや新聞等ではその話題が盛んに流れており、中でもパラリンピックでの我が国選手の活躍はすばらしいものがあります。滑空、スーパー大回転での狩野亮選手の優勝を始め、メダルを獲得された選手が沢山おられますが、この優勝の陰には余り知られていませんが、我が国の優れた加工技術が一役を担っていることがあげられます。この競技では時速100km/h以上のスピードがでて、優勝は0.01秒を争うために、その競技者の身体に合った最適の装具がもとめられます。それを作っているのが、昭和39年創業の愛知県北名古屋市にある日進医療機器という車椅子専門の従業員150名の会社で、一般の車椅子も作っている会社です。今では世界の6~7割の選手がこの会社の装置を使っているようで、装置の材質はアルミ製、軽くて、十分な強度があり、スピードが出るのが特徴だそうです。

このように、今まであまり知られていなかったところで、着実に技術を磨き、経験を積み重ねて行くのは我が国のものづくりの原点であり、特徴でもあると思いますが、このような技術をこれからも広げてゆかねばなりません。

21世紀に入り、はや14年が過ぎましたが、今後の我が国のもっとも深刻な問題の一つに、世界に類を見ない高齢化社会に対する対策があげられます。筆者は、今は現役を引退して田舎に暮らしておりますが、最近ひよんなことから介護の仕事を少し手伝うことになり、高齢者の介護の現場を見せて頂く機会が増えました。ここでは少し介護の話をして頂きます。

現在は一人の老人介護に、朝起きてからの行動、すなわち、洗顔、歯磨き、食事、排泄、洗濯、買い

物、入浴、余暇の過ごし方など、様々な場面で沢山の介護関係の人手を借りてやっていますが、今後増加する介護老人に対して介護の必要性は益々増えてくるものと予想されます。

厚生労働省の平成25年度老健局総務課のデータでは、現在75才以上の高齢者は10人に1人の割合ですが、2030年には5人に1人、2055年には4人に1人になると推定されています。今まで介護や福祉と機械工学とは余り関係がないと思っていましたが、介護の現場を見ても結構色々に関係していることがわかります。今はまだ十分に普及しているわけではないですが、これから徐々に増えてくると思われる福祉や介護ロボットの分野がその一つにあげられます。

業界では、医療ロボット da Vinci Surgical System は2014年1月現在で全国の大学、医療機関ですでに40台が導入されており、コミュニケーションロボットであるパロ（知能システム）、上腕機能支援ロボット（セコム）、食事支援ロボットのマイス

プーン（セコム）や、ロボティックベッド（パナソニック）、ロボットスーツ HAL（サイバーダイン）、RIBA（理化学研究所、東海ゴム）など様々なロボットが提案されています。

このようなロボット介護機器の開発・導入促進に向けては、平成25年11月に経済産業省と厚生労働省が共同で日本再興戦略を発表しており、ロボット介護機器開発5カ年計画をたてています。詳しい説明は省略しますが、日本の今まで培ってきた長年の経験と高度な水準の工学技術を活用し、高齢者や介護現場の具体的なニーズを踏まえた機器の開発支援を経済産業省が中心になり、開発の早い段階から、現場のニーズの伝達や試作機器について介護現場での実証（モニター調査・評価）を厚生労働省が中心になって行うことになっています。日本のこれからの超高齢化社会に向けて、機械工学だけでなく、IT技術等も有機的につなげた新しい介護システムが出来上がることを期待しています。

2013年総会講演会資料（平成25年6月29日）

耀く、ますます耀く母校を願って

一名古屋工業大学と名古屋工業会は何をしようとしているかー

名古屋工業会 理事長 篠田 陽史 (S33)



1. 自己紹介

岐阜市の出身で、昭和29年（1954）入学、入学式の当日体育会ヨット部に勧誘され、それからの4年間大学の授業時間よりヨットに乗っている時間と乗るため

のアルバイトの時間の方が長い生活を過ごしました。ヨット部卒業と言う生活です。同級生には数学の天才、物理の天才がいて何度か助けられた大学時代で、おかげで無事卒業できました。

入社は豊田自動織機です。仕事とヨットだけではない生活です。当時、土曜は昼まで、日曜休み、土曜の午後から日曜日までヨットハーバーで過ごしました。そんな訳で今でもヨット競技に出ています。

豊田自動織機 技術担当副社長退任後はトヨタ

生産方式等の経験を生かし、地元の半田市や市立病院の経営改善をボランティアとしてやっています。また一般社団法人名古屋工業会（名古屋工業大学全学同窓会）の理事長に平成20年5月に就任、今年5月退任予定です。

2. 工業会へ

卒業後は巴会の会員（学年幹事が会費を集める）でしたが幹事まかせであり、名古屋工業会とは無縁でした。平成20年どうしても断れない事情もあり、理事長に。大学、工業会に何もしてこなかった忸怩たる思いも引き受けた要因の大きな一つです。就任に当たっての考えは、平成20年度名古屋工業会総会での就任挨拶で述べております。就任当時、大学と工業会は互いに一歩引いている所が有るようになって感じました。

3. 当時、大学の置かれた状況と松井学長の努力

小泉改革により平成16年4月から国立大学は法人化され、国による第一期中期計画が発足、運営費交付金は3%ずつ毎年削減、大学は自分で生きる、大学及び先生は研究費を自分で稼ぐことを要求されるようになった。しかし大部分の先生はまだ国家公務員の感覚のまま、職員に至っては公務員感覚そのもの。

法人化は本来大学の自由化を目指した施策の筈が、以前の国立大学より運営、人事に対する官僚の支配は強くなった。官僚と対等の立場であった大学(良い例ではないが、総長と次官は同じような待遇)が法人となり、文科省が監督官庁で、局長より下の官僚の監督支配を受けるようになってしまったのではないだろうか。

深読みすぎかも知れないが、文科省官僚は削減される予算と文教族議員の動きを見ながら、旧七帝大、東工大等に重点的に配分されるように、中期計画の目標及び成果を競わせる評価基準を作ったように見える。実学や技術者養成より、研究要素が強いそれらの大学に有利な基準である。

少なくなっていく予算の中で選択と集中は当前と言えばその通り、国の金はこれからは先端的な研究、イノベーションを起こす研究に、普通の大学教育はもはや国が面倒を見る訳には行かない。これが本音だと思う。こんな中で第一次中期計画での名工大の評価は極めて高いが、大学の性格からいって難しいポジションである。本当に困っているのは教育大学、共同研究費などは入らないし、私大からの教員志望がどんどん増えている。私見だが教育大学は防衛大学校等のように、大学校が適当と思う。

松井学長以下執行部の並々ならぬ努力(外部研究費の獲得、特許使用料の大幅増はトップクラス)は、まさに特筆に値する。その成果の表れがテニスコート跡に建設された窒化物半導体マルチビジネス創成センターであり、今建設中の17号館建て替えにも表れている。

4. 名古屋工業大学第二次中期計画と高橋学長

平成22年4月第二次中期計画がスタート。松井学長が任期満了退任、高橋学長が就任された。この間政権が民主党から自民党に、当然それぞれの党の教育理念は異なるが、国に金が無いのは変わらない。選択と集中は小泉内閣以来変わらない底流、文科省官僚の考え方も変わっていない。

これから名工大はどうするのか。法人化そして次第に私大と同じ経営形態になって行く時、マ

ネージメントを学んだことのない名工大執行部の先生方、学長を含めて大変である。これからの大学経営は企業と同じと思う。企業なら、まず経営理念、社長の経営方針それに基づく経営戦略、それを展開した中期計画、そして年度方針、計画となる。

高橋学長のリーダーシップのもと名工大は平成23年8月民間企業人や学識経験者をメンバーとした大学の最高諮問機関である名古屋工業大学諮問会議を発足させ、国立大学の存在理由の再検討とそれに基づく大学憲章(私大なら建学の精神、企業なら経営理念にあたる)案及び総合戦略を諮問した。私学は建学の精神がはっきり示されているが、国立にはない。それは建学の背景が異なるためである。しかし国立大学の存在理由が大きく変り、大学によってその立ち位置が変わった今、私学の建学の精神に当たる大学憲章とそれに基づく方針、戦略の展開は必須と考える。諮問会議に提出された資料の一部を以下に転記。

戦前 国立大学は政策目的に沿った国家「須要」の人材養成。政策目的毎に別々の機能を持った高等教育機関として国家「須要」人材養成を行ってきた(戦前の高等教育機関: 帝国大学、専門学校、高等師範など)。

戦後 多くの大学が、一県一大学に集約されたが、地方総合(複合)大学が没個性化した。私立大学の増加(7割が私立大学)で、特に人文社会科学系において、国立大学の位置が相対的に下がった。

法人化 国立大学の法人化により、自主的、自律的な運営が求められ、個別大学の個性化が進められたが、国立大学全体としての存在意義が不明確になってきた。

国家財政が危機的な状況となってきたことを契機に改めて、国立大学の存在意義についての問いかけが、行われている。

名古屋工業大学の存在意義を明らかにしたのが大学憲章である。ただ、こうした展開は名工大では初めてであり、国立大学では、多分稀だと思う。ただ中期計画は文科省からの統一指針で作らねばならず、大学憲章からの一貫した筋が通っているとは言えない難点がある。

国立大学協会(当時京大総長が会長)は平成25年5月、国立大学の機能強化と題したレポートを出したが、名工大は2年先行している。ただこのレポートは無難な作文であり、自己弁護。私大の努力、米国の大学(有力大はほとんど私大)との差異も述べ

ていない。その資料の一部を以下に転記。

国立大学の公共的役割の再確認

○大学における教育研究等は、人的資源の輩出や研究の高度化による科学技術の発展をもたらし、社会に対して大きな便益をもたらしてきた。
 ○社会にもたらすこの便益及びその増大への絶えざる期待によって、大学は「公共性」が認められ、投資額を上回る社会的便益が期待されるという理由から、その費用の一定部分を公的に負担すべき組織体として認められ、特に国立大学については、設置者たる国による公的財政投資がこれまで大きな役割を果たしてきた。
 ○国立大学は、我が国の将来を大きく左右する重要な役割を担うことを国民から負託されており、教育や研究が社会に与える便益の質を常に自律的に高めながら、その負託に適切に応じていくことこそが国立大学の存在意義であり、公共的役割の源泉である。

国立大学協会がどう言おうと政府はノーベル賞を頂点とした先端研究、産業にイノベーションを起こす研究に、ヒト、モノ、カネをあてる考えは明らかであり、IPS細胞実用化研究を見れば良く判る。このことは、運営費交付金の縮小と科研費の増額重点配分に、はっきり表れている。目論むところは、旧帝大その他一部の大学の強化。

では名工大は！ 明治以来実学で(学科、特に大学院の画期的な再編成以後変わった点が多いが)社会から大きな評価を受けてきた名工大はどう対処するのか。多少聞いている範囲で紹介すると、その一つとして、以下の2コース制を検討している。

○高度な研究部門（イノベーションハブとなる研究拠点）の強化には、4+5但しコースは多様化。

○社会で高い評価を得る技術者、経営者となる人材の養成（実践的エリート養成）教育 6年一貫。

苦肉の策だが選択肢としては、最良であろう。企業が名工大に求め、そして明治の開校期から基本とし有為な人材を輩出してきた実学教育と、先端研究の両立である。先端研究については、名市大薬学部との共同大学院や外国大学との研究協定をどんどん進めているのもその一つ。ただこの大学危機に対し全学の先生や職員が同じ思いを持っているか、心配な点が多い。

5. 大学と平成25年4月発足の新しい一般社団法人名古屋工業会

平成20年理事長に就任した時、大学との間で

互いに一歩引いている、一体感がないと感じたが、ここに来て“卒業生は大学の最大の財産”との共通認識が出来、学位記授与式、入学式で“お喜び”と“歓迎”の挨拶が出来るまでに、密接になりました。また大学の全面的な支援のもと、平成24年度から新入学生全員の終身会員入会活動を進めており、平成25年度の実績は学部第一部では980名のうち89.3%が終身会員に入会、これは母数に留学生を含んでいるので、ほぼ全員の入会となります。今や大学と工業会は高い一体感を持って活動しています。

名古屋工業会は平成25年4月1日、大正4年 名古屋高等工業学校同窓会が出来てからの98年の歴史を閉じ、新法法人による、一般社団法人名古屋工業会として発足しました。今迄の所謂同窓会とは異なり、定款の事業目的の第一に大学の支援を掲げ、在学生、教職員とそのOB、そして卒業生を会員有資格者とする全学組織です。また大学の支援で同じ思いを持つ団体（単科会や各種OB会等）との連携を密にするため、会友を設けました。会誌“ごきそ”を開放しています。

6. 大学支援事業 キーワード

“耀く ますます耀く母校を願って”

名古屋工業会は、事業目的の第一に母校の支援を掲げていますが、ここにきて初めて財政的な支援が出来る様になりました。これは大学と一体になった新入学生の名古屋工業会への全員入会活動の結果です。平成25年度名古屋工業会全予算約9,800万円のうち、大学支援は約5,000万円、51%に当たります。支援に当たっては、先生方には国際的に高く評価される研究、学生諸君は、優秀な学生に対する奨学金、国内外での優れた研究発表及び海外留学に対して、学内選考基準により学長が授与します。課外活動に対しては、トップレベルを目指す活動により、優れたコミュニケーション能力、マネジメント能力を備え、忍耐力とガッツのある人材育てることを目的に支援しています。

卒業生の皆様にお願ひがあります。卒業生の名古屋工業会入会率は22%内外です。大学支援を事業目的とする名古屋工業会に是非ともこの機会に挙っての入会をお願いします。平成26年度、名古屋工業会は入会規則を改定し、全支部動員の終身会員入会キャンペーンを行います。例えばリタイアに近い卒40年では、従来の5万円から3万円に、50年では5万円から2万円です。更に東京支部、大阪支部では独自のキャンペーンとして各卒年とも1万円の補助をする計画です。

7. 母校への帰属意識（アイデンティティー）

国家の将来を担う人材養成を目的に国により設立されたのが国立大学であり、建学の理念のもと設立された私学と比べ、母校に対する帰属意識が薄いのは致し方ない。しかし、今や国立大学は法人化され、形態は私大と変わらなくなってきている。今こそ私達は母校に対する帰属意識（アイデンティティー）を強く持たねばならない。母校が衰退して行く事があれば、私達卒業生は社会に認められなくなった事を意味する。今その分かれ目にきている。大学と工業会は、生き残って行くためには、100年の歴史によって作られた卒業生の知識量、社会貢献量こそ資産であり、これを念頭に置かない限り戦略も戦術もあり得ないとの認識で一致し、遅ればせながら学長直轄の卒業生連携室を平成23年4月に発足させ、卒業生名簿とそのデータベースの作成、管理を大学が主体となって進めて行く事を決定した。現在大学、工業会、単科会が強力に推進している。また卒業生連携室では、全卒業生へ生涯メールアドレスを渡し、大学との連携がより密接になるようにしている。卒業生連携室のホームページにアクセスし、メールアドレスを取得して欲しい。

次は私達卒業生の番である。大学では、教育、研究環境の整備充実を目的に、大学創立100周年の募金をもって名古屋工業大学基金を創設した。この中には機械工学科先輩の大野耐一氏及び遺族からの2億円に上る寄付も含まれている。大学基金は永続的に運用して行くもので、何時でも寄付が出来る様になっている。是非とも各種の同窓会やOB会の集まり、又諸君個人の記念すべきときなど、たとえ少しでも寄付をする習慣が出来れば、その中で

母校に対するアイデンティティーも養われる。名工大に入ったからこそ出来る集まりだから。

8. やり残した二つの大きなテーマ

8-1 全国区の大学に！

現在名工大の新入学生は東海3県で80%超、私の時代は全国から学生が集まっていた。多様性は絶対必要、私が名古屋工業会の各地方支部総会に出席するたび、いつも問題提起される。時代の流れとはいえ、少しでも改善したい。募集、入試方式、奨学金等多大な困難があるが、特に大学が本気になる必要がある。

8-2 大学院マネジメントコース(MBA)の必要性。

特に機械工学出身者は、将来専門技術に行く人だけではなく、マネジメントに進む人も多い。会社で仕事をしているうち、マネジメントを学ぶ必要性に迫られてくる場合が多いと思う、私自身が痛感してきた。それに応えられる大学にと前理事長の牛込氏以来訴え続けてきた。MITにもエコーポリテクニックもMBAコースがあります。名市大と共同大学院という考えも有りうる。しかし残念ながら全く進んでいないのが現状、今後も倦まず推進したい。ただ6年一貫コース実施の際にはマネジメントを学ぶ様にすると説明は受けている。

平成26年5月、理事長退任の予定、残した二つの大きなテーマは次期理事長に引継いで行きます。

最後になりましたが、巴会総会にお招き頂き、講演の機会が出来ましたことを感謝申し上げますと共に巴会会員の皆様方の益々のご健勝、ご繁栄を祈念し、稿をおきます。

名古屋工業大学基金への寄附のお願い

名古屋工業大学では、企業・団体や個人の皆様に教育研究環境の整備充実を目的とする寄附をお願いしております。

ご寄附をお願いしたい額	一口 1,000円 (なにとぞ複数口のご協力を)
基金の用途について	寄附金については、本学の教育研究、社会貢献及び国際交流に関する活動等の推進を図るとともに、教育研究環境の整備充実のために有効に活用させていただきます。
寄附の申込みについて	寄附申込書を名古屋工業大学企画広報課宛てにE-mail、FAXまたは郵送し、指定の振込先金融機関にお振込み願います。また、本学収納窓口(本部棟2階)でも寄附申し込みを承っております。
税制上の優遇措置について	名古屋工業大学へのご寄附については、法人税法、所得税法による税制上の優遇措置が受けられます。

■詳細については、名古屋工業大学基金ホームページをご覧ください。
<http://www.nitech.ac.jp/kikin/index.html>

【お問い合わせ・寄附申込書送付先】
 国立大学法人名古屋工業大学 企画広報課
 E-mail : kikin@adm.nitech.ac.jp
 TEL : 052-735-5004 FAX : 052-735-5009

関 東 支 部 便 り

450名強の卒業生を擁する関東支部から平成25年度の活動報告です。

1. 巴会関東支部の活動

巴会関東支部は名古屋工業会東京支部の下記行事に参加しています。

- ① 名古屋工業会東京支部総会：毎年11月に開催されます。併せて「巴会関東支部秋の集い」を開催します。
- ② ごきそサロン：年2回、講師を招いて様々なテーマでお話を伺います。毎回40名強の参加者で賑わいます。

第51回ごきそサロン 平成25年5月29日（水）
「地下鉄の、駅やトンネルの安全性と保守について」 榎尾 恒次氏（C48）
東京交通サービス(株)常務取締役工務本部長 技師長
運輸施設の地震被災、トンネル、地下鉄の事故の被害・原因の説明と、駅やトンネルの地震時の安全性について。

第52回ごきそサロン 平成25年12月4日（水）
「東日本大地震に遭遇した制振構法で補強された仙台市役所を中心として」
尾崎 猛美氏（A52）
飛鳥建設(株) 理事 技師長
“トグル制振構法”の構造説明と、同工法で補強された仙台市役所庁舎の制振効果の実例の紹介。写真は当日の質疑応答の状況です。



- ③ エクスカーション：5月中旬から6月上旬の新緑の頃、「日本文化遺産を巡る」と題して関東各地の魅力溢れる名所を訪れています。ご家族ご同伴の参加も歓迎です。
平成25年は5月18日（土）三浦半島巡りバスツアーと称し戦艦三笠の横須賀市三笠公園、観音崎灯台の観音崎公園を訪れました。参加者は23名。
- ④ 東京棋友会：会員19名の囲碁の集まりです。毎

週土曜日午後1時から、自由参加の形で定例会を開催しています。また、囲碁大会、九州工大交流戦、囲碁研修を兼ねての旅行会も開催しました。

- ⑤ 東京ゴルフ会：神奈川、千葉、埼玉のゴルフ場で年4回（4月、6月、9月、12月）開催されます。会員数43名、90歳台お二人を筆頭に平均年齢78歳の元気集団です。

支部総会・巴会秋の集いは巴会会員各位に書面でご案内しています。ごきそサロン以下の各行事の案内は名古屋工業会会誌「ごきそ」に掲載されますので、お申込み下さい。尚、平成26年度より名工会会員の方は、ごきそサロン及びエクスカーション参加に際し、名工会東京支部より補助制度が設けられました。

2. ロボコン工房支援

水野教授御指導の基に進められている“ロボットコンテスト”挑戦活動の支援を始めました。同活動は災害時のレスキューロボット等の開発・制作・性能を競うものです。会員各位の御寄付による費用面での支援を行います。関東支部域内にお住まいの卒業生にお願いしております。

3. 名古屋工業会東京支部関連

前述のように名古屋工業会会員には活動参加に際し補助金が交付されます。名工会は卒業生の終身会員化促進策として平成26年度より、卒業後10年単位で現終身会員費8万円を大幅に減額する事としました。同時に名工会東京支部は会員入会時に1万円の補助を行います。

4. 巴会関東支部秋の集い（兼工業会東京支部総会）

秋の集い、工業会東京支部総会は、平成25年11月9日（土）、中野サンプラザで開催されました。大学から高橋学長はじめ、巴会副会長の水野教授（M53）、森教授（D52）、工業会から篠田理事長（M33）をお迎えしました。高橋学長の来賓祝辞で「名古屋工業大学の近況」報告が行われ、大学の現状、新たな教育・研究への取り組み、国際交流、社会貢献等々について紹介されました。続いて篠田理事長が一般社団法人化された名工会の事業目的は第1に「本学の支援」とし寄付の継続、卒業生の就職支援等々について述べられました。次に議事審議が行われ、各種議案が承認されました。

特別講演は首都大学東京大学院教授 春田正毅氏 (D45) により「現代の錬金術：金のテクノロジー」として極めて安定な物質である金が素晴らしい触媒性能を有する事の説明が有りました。氏の業績はノーベル賞候補でもあります。

その後、管弦楽団OBの弦楽四重奏の中、和やかに懇親会が開催されました。

今回の秋の集い、総会は出席者確保を目的に従来の平日夕刻（木曜日18:00）から土曜日午後開催と変更しました。狙いは、現役の方が出席可能な事、会終了後の時間を同期会等に充て、出席者の利便性を図る事です。結果出席者は工業会が5割増し

の170名、巴会は7割増しの22名でした。又巴会では、昭和16年ご卒業 伊藤 剛様、昭和18年ご卒業 小関健二様と大先輩をお迎えしました。

平成26年度秋の集い、工業会東京支部総会は次の要領で開催が予定されています。

日 時 平成26年11月8日(土) 15:00 開会
場 所 中野サンプラザ

改めて皆様に書面での御案内を申し上げます。同期会の呼び水も兼ねて御出席下さい。前回は昭和49年卒が同期会を開催しました。

(M46 北野 良幸、巴会関東支部長)

[連絡先 090-4826-7978、y-kitano@c3-net.ne.jp]

関 西 支 部 便 り

巴会関西支部 平成25年度活動報告

1. 平成25年度「巴会関西支部総会」

平成25年6月22日(土)に巴会本部・工業会大阪支部の来賓4名を含む総勢35名の参加で、大阪天王寺「料亭天王殿」で開催。自由参加の見学会は、日本一高いビル「あべのハルカス」を眺めながら、天王寺・上町台地辺りの「コテコテの大阪」を散策。講演会は 機能工学専攻の石野洋二郎教授が「燃焼と機械～ギネス記録からエンジンまで～」と題して、燃焼デモ、「158眼カメラ」のギネス記録取得、話題の「イシノ・エンジン」開発などの紹介があった。本格講義に質疑応答が相次いだ。H25年度巴会関西支部総会は、来賓の工業会大阪支部三木副支部長、巴会本部大西副会長の活動紹介の後、H24年度支部活動報告と決算、H25年度の活動計画と予算案など順次報告、承認された。懇親会はM22 青木先輩の乾杯ご発声でスタート。大阪では珍しくなった本格的日本庭園付きの料亭で、1.5時間以上にわたり歓談。H22年卒とH12年卒の若手も初参加、参加者から「満足」との声が多かった。

2. 第2回海外同窓会マレーシア

平成25年10月18日から22日、クアラルンプール市と世界遺産古都マラッカ1日観光を、同窓7名と家族2名が参加して実施。ホテルは中心繁華街の5星パークロイヤル・クアラルンプール。モノレール(日本製)駅、高層の高級複合商業ビル、中華街も近い。ガイドはルックイースト政策に基づく20年前の日本留学生で、現地JTB社員が、マレーシアの歴史・地理・政治・対日感情などの最新情報を提供。マレー語の7割がインドネシアで通用すること、インフラ建設は10年前まで日本企業が主要受注者だったが、最近韓国と中国企業が逆転。

最近の円安による日本人旅行者数への影響は少ない。テロはなく治安は非常に良好で、日本人退職者の長期滞在希望ランクは第1位で、国内預金が1000万円あれば無条件で5年間の入出国が許可など。21日夕刻に姫路西高校卒業生で長期滞在者のS.M.氏に、現地日本企業の状況とゴルフ三昧の生活を伺う。市内繁華街の急速な整備・地下鉄工事・高層ビル・マンション新設工事と郊外の緑との調和。マレー鉄道急行列車の乗り心地の大幅な改善と新設駅舎、古い観光地とイスラム・仏教寺院の保全など、マレーシアの勢いを感じた旅行でした。

3. 平成25年度名古屋工業会大阪支部総会と大阪支部活動

平成25年11月16日(土)に工業会大阪支部総会が大阪弥生会館で開催。講演は旭電機化成(株)専務取締役W56原 守男氏の『工大ラグビーと中小企業のものづくり』。TV紹介の製造業で、毎年100点級の新品を作り続けるニーズの発想と販売方法、試作品製作はシルバー技能員の技など目からウロコが落ちた。この行動の原点として、名工大ラグビー部で1部最下位を常に死守する監督の攻撃戦略と試合重視戦術をあげた。短時間高効率の練習、半プロのラグビー大学軍団の中で捨てる試合と必勝試合の戦術、これも目からウロコ。最後にラグビー部OBが集合して部歌の咆哮。総会では、木越支部長から単科会と工業会の見学会・講演会の融合と連携、大阪支部と兵庫支部の相互乗入れ、35歳以下の若手・女性会、春秋の歴史探訪会、光鱈会の毎月講演会など、幅広い活動実績の報告とH25年度の活動継続が承認。名工大学術支援とOB懇親の目的に衣替えした名古屋工業会に対応した活動を実施中。

4. 平成 26 年「第 7 回新年懇話会」

第 7 回新年懇話会が、平成 26 年 1 月 25 日（土）に 17 名で、宝塚の「名湯 宝乃湯」で開催。有馬温泉「金泉」と同質の天然温泉かけ流し露天風呂、サウナで汗を流した後、本家讃岐屋で M39 山本先輩から「大阪夢洲での LNG1000 万 kW 発電計画の展開と意義」と題し、原発代替発電所の建設構想と意義、人と機会の出会いの重要性を紹介。約 2 時間の会食で賑やかに技術談議等が続く。新年会終了後、徒歩 15 分の中山寺に少し遅い初詣したのち解散。

5. 巴会関西支部の懇親ゴルフコンペ

巴会関西支部懇親春季ゴルフコンペは平成 25 年 3 月 30 日（土）に、京阪倶楽部で 10 名参加。優勝は M47 細井氏。懇親秋季ゴルフコンペは平成 25 年 9 月 28 日（土）に、きさいちカントリークラブで開催。優勝は M57 数阪氏。同窓会参加はまずゴルフからと、壮年初顔の方の参加が増加中。

6. 平成 26 年度巴会関西支部活動計画

平成 26 年度の総会は 7 月 12 日（土）に「料亭天王殿」で、講演は機械系大学院教授で計画。ゴルフコンペは平成 26 年 3 月 29 日と 9 月 27 日に開催。第 3 回海外同窓会は 10 月中旬にホーチミン市で計画。平成 27 年 1 月 24 日（土）新年懇話会を京阪神の温泉で開催。工業会大阪支部の巴会新委員を選任し、単科会、企業見学会、歴史探訪会の予定を巴会関西支部 HP に情報を掲載します。名工大卒業生であれば全行事に参加可能。平成 26 年 4 月 1 日から名古屋工業会終身会員の会費を大幅に減額し、大阪支部から補助金も出ます。巴会・名古屋工業会会員となり、名工大から会員永久メール番号を取得し、名工大への学術支援活動、支部・単科活動へ積極的な参加をお願いします。

(M45 掛田 健二、関西支部長)

巴会運営便り

- 平成 25 年 6 月 29 日学内において、平成 25 年度巴会理事会・総会が開催され、全議案が承認されました。総会後の講演会では、名古屋工業会の篠田陽史理事長をお招きし、演題「輝く、ますます輝く母校を願って一名古屋工業大学と名古屋工業会は何をしようとしているか」について大変興味深いご講演を拝聴しました。
- 平成 26 年 2 月 3 日に理事会が開催され、25 年度の活動実績等について議論・報告がなされました。
- 平成 26 年 3 月 4 日に理事会が開催され、25 年度決算案、26 年度活動計画・予算案、理事交替等について協議・報告がなされ、新年度総会への対応・準備を行いました。
- 平成 26 年 3 月 23 日に、名古屋工業大学学生会館 1 階大食堂に於いて巴会主催の巴会賞授与式および卒業記念パーティーが開催され、大西副会長、顧問の船橋先生、監事の近藤様並びに多くの先生方の参加で盛大なパーティーとなりました。準備に当られた先生方に心より感謝します。

(H04 杉山 耕一、事業担当)

訃報（次の方々のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り致します。）

S06 鳥田 賢三	S17 片岡 明幸	S23 滝 英夫	S24 脇田 政敬	S34 尾澤 義治
S12 間瀬 良一	S18 杉山 旭	S23 伊藤 喜久治	S24 二宮 猛	S34 村上 操徳
S12 長瀬 茂	S19 齊藤 清	S23 安藤 佳正	S26 加藤 文雄	S36 市川 郁夫
S13 後藤 茂雄	S19 川合 聿一郎	S23 芳田 剛	S26 若尾 忠孝	S43 浅野 光彦
S14 野津 隆	S19 岩月 央	S23 市川 員彦	S26 伊藤 悦雄	S44 恩田 稔
S14 柴田 武	S20 高橋 久雄	S23 山本 清茂	S26 鷲野 正治	S55 前田 勝次
S15 小林 十三	S20 田中 清春	S23 松谷 千歳	S28 日比野 宏	S57 鈴木 謙
S16 永井 茂	S21 神谷 桂	S23 大矢 真三	S30 塚本 桂次	
S16 瀬戸 英雄	S22 榊 明	S23 太田 徹	S32 成瀬 正	
S17 丸本 智	S22 梶浦 益也	S24 伊藤 伸	S33 山内 利一	
S17 山田 豊太郎	S22 服部 猛司	S24 杉浦 三郎	S33 岡島 弘之	

平成 25 年度に巴会に連絡頂いた方々を掲載しています。

学内報告

〈人事異動〉

名古屋工業大学機械工学科、大学院機能工学専攻、情報工学専攻の機械系分野について、次の人事異動がありました（敬称略）。

〈着任〉

平成26年4月1日 助教 杉田 修啓
 本学特任教員（テニュア・トラック助教）から転任

〈退職〉

平成25年6月1日 助教 荒田 純平
 九州大学 准教授へ転出
 平成25年10月1日 技術部研究基盤課
 林 浩一
 鳥羽商船高等専門学校 准教授へ転出
 平成26年4月1日 准教授 長山 和亮
 茨城大学 教授へ転出
 平成26年4月1日 助教 廣芝 伸哉
 東北大学 助教へ転出

〈ソフトボール大会〉

巴会ソフトボール大会が平成25年9月23日に千種グラウンドにて開催されました。各研究室から12チーム、約200名が参加して熱戦が繰り広げられ、優勝は石野研究室「ありさん」、準優勝は水野研究室「水野研」、第3位は森西・玉野研究室「TKD株式会社」でした。

〈卒業式・卒業記念パーティー〉

卒業式が平成26年3月23日に挙行政され、同日の午後に巴会主催の卒業記念パーティーが大学会館1階大食堂にて開催されました。水野直樹副会長の開会の辞に始まり、大西一副会長と近藤邦治監事から祝辞をいただいたのに続いて船橋鉦一顧問

から乾杯の発声があり、晴れやかな雰囲気の中で恩師と歓談する卒業生の姿が見られました。祝辞ではグローバル化、夢、未来、ベンチャー・スピリット、社会的責任といったことが語られ、巴会を誇りに思っしてほしいとの言葉がありました。巴会賞などの学業成績優秀者の表彰、研究発表旅費受給者のスピーチ、ソフトボール大会の表彰もパーティーの中で行われました。中締めでは佐野明人理事の呼び掛けにより参加者全員が手をつないで一つの輪をつくり、人と人の繋がりの温かさ大切さを感じながら万歳を三唱しました。

本年度の巴会賞とその他の各賞の受賞者は次の通りです（敬称略）。

- ★巴会賞
橋本真佳、吉川大貴
- ★名古屋工業会賞
矢田 将、松尾真之介
- ★日本機械学会畠山賞
福田智弘、福永大輝
- ★日本機械学会三浦賞
夏目りえ、手嶋啓介



大西副会長祝辞



巴会賞授与



（水野礼人君）



（青山真士君）

研究発表旅費受給者スピーチ

～ Voice of Students ～

＝ 学会参加を通して＝

機能工学専攻
成形加工学研究室 水野礼人

私は、去る2012年11月に北九州市の北九州国際会議場において開催された第63回塑性加工連合講演会にて「高強度塑性結合の開発（第15報）－台形セレーションの押し込み解析－」と題して講演に参加してきました。巴会から講演会参加の援助を頂き、無事に発表を終えることが出来ましたので、ここに報告いたします。

私は、今回の講演会で軸と円板の結合法に関する発表を行いました。軸と円板の結合の際、軸にギヤの様な歯をつけて穴に押し込むと、円板材に歯が成形されて結合されます。歯が付くことと円板材が加工硬化することで高トルクが伝えられるのに加え、軸を押し込むだけなので効率的に高精度な結合が可能となります。本発表では、軸につけた歯の形状ごとの円板材の変形挙動や結合可能な軸と円板の硬さ比などを報告しました。

今回の講演会は、大学院で研究テーマが変わってすぐだったことに加えて、講演会での発表が初めてだったためうまく発表できない部分もありましたが、質疑応答や発表後に今後の研究につながるコメントをいただくことができました。さらに、他の参加者の発表から塑性加工という分野の中でも様々な技法、応用が考えられることを知り、大変勉強になりました。夜の懇親会では他大学の同世代の方とお話をする機会があり、私の研究生活への刺激となりました。

最後ではありますが、この学会発表を通して私たちが得た経験を、以降もより多くの学生にも経験していただけるように今後も巴会からの援助をお願い申し上げます。そして、私にこのような貴重な支援をして頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。



北九州国際会議場近くのJR小倉駅

＝ 学会発表を通して＝

創成シミュレーション工学専攻
水野研究室 内田陽介

私は、去る2012年5月17日に宇宙航空開発研究機構筑波宇宙センターにおいて開催された第29回誘導制御シンポジウムにおいて、「自動着棧操船に関する研究-GPUによる並列予測制御手法の実装-」と題して発表を行いました。巴会から講演会参加の援助を頂き、無事に発表を終えることが出来ましたので、ここに報告いたします。

この講演会において、私は船舶を所定の位置に停止させる操船手法である着棧操船の自動化について、提案手法であるGPUを用いた制御系と実船実験の結果を発表しました。

自分の研究内容を伝えるためには、発表資料のレイアウトや口頭で述べる内容を工夫する必要がありました。加えて普段の報告とは異なり、多くの方々の前で発表を行うことはとても緊張しました。しかし、事前の発表練習などで指導教員の水野先生にご指導をいただき、無事に発表を終えることができました。また、質疑・応答においてご意見をいただくことや、他の研究者の発表を聞くことは、その後の研究の参考となりました。

この講演会参加を通して得た経験は、その後の研究や学会発表に役立ちました。加えて、この講演会への参加をきっかけとし、後の学生生活において、複数の講演会や展示会へ参加することができました。

最後ではありますが、講演会参加を通して私が出た経験を、以降もより多くの学生にも経験していただけるように今後も巴会からの援助をお願い申し上げます。そして、私にこのような支援をして頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。



制御対象「汐路丸」

ROAD TO DREAM !!

名古屋工業大学工学部付属ものづくりテクノセンター フォーミュラプロジェクト

大学講義を生かした実践形式の教育プロジェクト

当プロジェクトは、机上の講義を生かした“ものづくり”を実際に体験することで、若手エンジニアを育成する教育プログラムの一環として2002年から始動しました。

毎年9月に行われる“全日本学生フォーミュラ大会”に出場するために、学生自ら車両の設計、製作だけでなく、会計管理、資金調達、渉外スポンサー活動を初めとした運営マネジメントも学生のみで行っております。

昨年度大会では、3年ぶりに目標の一つとして掲げていた耐久走行競技の完走を達成することができ、さらに一昨年度の34位から77チーム中13位と順位を伸ばすことができました。しかし、表彰台獲得という目標を達成することができなかつたほか、一昨年度からの課題であった信頼性の面で、いくつかトラブルが発生してしまいました。今年度こそは、信頼性という課題を克服し、表彰台を獲得できるよう一層努力をしております。

最後になりますが、私達の活動は自分たちの力だけでは続けていくことはできません。今年度も巴会の皆様に資金的援助を戴き、このような素晴らしい活動を行うことができている。誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。



澤木 勇佑 (サワキ ユウスケ)

リーダー：機械工学科4年

名古屋工業大学11号館107室

Tel : 090-7315-1292, Fax : 052-735-5629

Mail : nit_formula_project@yahoo.co.jp

http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/

平成 25 年度 卒業生の進路・就職先

■ 大学院 修了者

(株)IHI
アイシン・エイダプリア(株)
アイシン精機(株)
(株)アドヴィックス
(株)アドマテックス
宇宙技術開発(株)
オークマ(株)
兼房(株)
川崎重工業(株)
川重岐阜エンジニアリング(株)
河村電器産業(株)
小島プレス工業(株)
(株)小松製作所
シスメックス(株)
新日鐵住金(株)

新日鐵住金エンジニアリング(株)
スズキ(株)
ダイキン工業(株)
大同特殊鋼(株)
タカタ(株)
(株)竹中工務店
電源開発(株)
(株)デンソー
(株)デンソーウェーブ
(株)東海理化電機製作所
東芝プラントシステム(株)
トヨタ自動車(株)
(株)豊田自動織機
トヨタ車体(株)
トヨタ紡織(株)

日本ガイシ(株)
日本車輛製造(株)
日本たばこ産業(株)
日本特殊陶業(株)
日本ハムファクトリー(株)
パナソニック エコシステムズ(株)
(株)パロマ
日立アロカメディカル(株)
(株)日立製作所
富士機械製造(株)
ブラザー工業(株)
ボッシュ(株)
本田技研工業(株)
(株)マキタ
(株)松浦機械製作所

マツダ(株)
三菱重工業(株)
三菱電機(株)
ムツミ工業(株)
(株)村田製作所
(株)メニコン
(株)森精機製作所
ヤマザキマザック(株)
ヤマハ発動機(株)
(株)UACJ
リンナイ(株)

名古屋工業大学大学院

■ 学部 第一部 卒業生

アイシン・エイダプリア(株)
アイシン精機(株)
愛知時計電機(株)
(株)アドウェイズ
河村電器産業(株)
KYB(株)
(株)サンエイ工務店
(株)CNK
CKD(株)
ジェイアール東海コンサルタンツ(株)
清水建設(株)

住友電装(株)
静甲(株)
ゼブラ(株)
(株)タマディック
(株)チトセアート
中菱エンジニアリング(株)
津田駒工業(株)
テルモ(株)
(株)デンソー
(株)デンソーウェーブ
豊田合成(株)

トヨタ自動車(株)
(株)豊田自動織機
日本エアロフォージ(株)
日本ガイシ(株)
日本特殊陶業(株)
パナソニックデバイスSUNX(株)
(株)パロマ
富士重工業(株)
べんてる(株)
本田技研工業(株)
名鉄産業(株)

(株)八神製作所
(株)安川電機
ヤマザキマザック(株)
ヤマハ発動機(株)
菱電商事(株)

名古屋市

奈良先端科学技術大学院大学
名古屋工業大学大学院
名古屋大学大学院

■ 学部 第二部 卒業生

アイシン高丘(株)

(株)ケーイーシー

日研総業(株)

(株)マキタ

平成 26 年度 巴会理事会・総会 議題資料

(1) 平成 26 年度役員名簿 (案)

<p>会 長：松原 十三生 (名古屋工業大学名誉教授、S36)</p> <p>副 会 長：学外・大西 一 (S49) 学内・中村 隆 (教員)</p> <p>理 事：北野 良幸 (S46、関東支部長) 掛田 健二 (S45、関西支部長) 宇佐美 勝 (S48) 森西 洋平 (教員) 新美 重秋 (S50) 山田 学 (教員) 辻 秀武 (S50) 古谷 正広 (教員) 仙石 武広 (S59) 石野 洋二郎 (教員) 石川 拓生 (S60) 糸魚川 文広 (教員) 富田 庸公 (H01) 牧野 武彦 (教員) 武内 博明 (H01) 佐藤 尚 (教員) 大島 成通 (H02) 玉野 真司 (教員) 杉山 耕一 (H04) 出口 真次 (教員) 伊藤 智啓 (教員) 牛島 達夫 (教員)</p>	<p>監 事：学外・近藤 邦治 (S45) 学内・萩原 正弥 (教員)</p> <p>最高顧問：山田 豊 (S22)</p> <p>特別顧問：金原 淑郎 (S25)</p> <p>顧 問：船橋 鉦一 (S28) 山中 由男 (S29) 石川 宏 (S30) 大河内 禎一 (S31) 塩見 正直 (S34) 木村 金治 (S35) 成田 政敏 (S35) 江崎 俊夫 (S38) 長野 靖尚 (S41) 服部 桂 (S41)</p>
--	--

(2) 平成 25 年度事業報告 (案) および平成 26 年度事業計画 (案)

	平成 25 年度事業報告	平成 26 年度事業計画
会報	「ともえ」No.47 発行 H25.5	「ともえ」No.48 発行 H26.5
総会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H25.6.29	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H26.6.21
講演会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H25.6.29 講師：名古屋工業会 理事長 篠田 陽史 様	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H26.6.21 講師：名古屋工業大学 情報工学科 教授 佐藤 淳 様
総会 付随行事	(1) 研究室開放 ○ 佐野・田中研究室 (担当：佐野教授、田中助教) 内容：「歩行・走行、触覚研究の紹介」 ○ 流体力学グループ研究室 (担当：森西教授・玉野准教授、 長谷川教授・牛島准教授・鈴木助教) 内容：「流体工学・流体機械に関する実験 設備 (風洞設備など) の紹介」 (2) 学生製作のフォーミュラカーの見学	(1) 研究室開放 ○ 熱移動工学研究室 (担当：田川教授、保浦准教授) 内容：「伝熱および物質輸送現象に関する 実験設備の紹介」 ○ 機械制御研究室 (担当：山田教授) 内容：「飛行ロボットと車両ロボットの 自動制御に関する研究の紹介」 (2) 学生製作のフォーミュラカーの見学
懇親会	名古屋工業大学 校友会館 H25.6.29	名古屋工業大学 校友会館 H26.6.21
支部	(1) 関西支部総会・懇親会 H25.6.22 海外同窓会 H25.10.18~21 (クアラルンプール市) ゴルフ会 H25.9.28、H26.3.29 新年 (懇話) 会 H26.1.26 (2) 関東支部秋の集い H25.11.9	(1) 関西支部総会・懇親会 H26.6.22 海外同窓会 H26.10.10~13 (クアラルンプール市) ゴルフ会 H26.9、H27.3 新年 (懇話) 会 H27.1.24 (2) 関東支部秋の集い H26.11.8
学内事業	(1) ソフトボール大会 H25.9.23 (2) 工場見学会補助 H26.3.7 (3) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー H26.3.23 (4) 院生学会出席補助 (5) フォーミュラカー製作補助	(1) ソフトボール大会 (2) OB は語る会 (3) 工場見学会補助 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー (5) 院生学会出席補助 (6) フォーミュラカー製作補助
会議	理事会 (3 回)	理事会

(3) 平成 25 年度 会計報告案 (2013. 4. 1~2014. 3. 31)

(4) 平成 26 年度 予算案 (2014. 4. 1~2015. 3. 31)

[一般会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,189,194	会報発行発送費	1,093,050
クラス会費	111,268	支部補助	250,000
終身会費	1,096,760	総会/講演/懇親会	271,210
(卒業生)	(298,360)	学内事業補助	441,634
(在学生)	(798,400)	名簿整備費	332,136
総会懇親会参加費	136,000	会議費	116,185
受取利息	278	事務通信費 (支部通信費含む)	93,962
工業会名古屋支部補助	—	運営費・雑費	2,662
基金会計から補助	845,000	次年度への繰越	2,777,661
合計	5,378,500	合計	5,378,500

[一般会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	2,777,661	会報発行発送費	1,150,000
クラス会費	100,000	支部補助	250,000
終身会費	1,200,000	総会/講演/懇親会	300,000
(卒業生)	(200,000)	学内事業補助	695,000
(在学生)	(1,000,000)	名簿整備費	250,000
総会懇親会参加費	200,000	会議費	100,000
受取利息	1,000	事務通信費 (支部通信費含む)	100,000
工業会名古屋支部補助	70,000	運営費・雑費	50,000
基金会計から補助	845,000	次年度への繰越	2,298,661
合計	5,193,661	合計	5,193,661

[基金会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	14,152,035	一般会計へ補助	845,000
受取利息	3,826	次年度へ繰越	13,310,861
合計	14,155,861	合計	14,155,861

[基金会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	13,310,861	一般会計へ補助	845,000
受取利息	4,000	次年度へ繰越	12,469,861
合計	13,314,861	合計	13,314,861



正門から構内を望む

巴 会 会 歌

作詞 井上俊一 (明四十三卒)
作曲 宮崎安兵衛 (リ)

一、正気籠れる東陵に
誓も堅き健児等が
健実の気風樹立して
不撓不屈の旗高し
フレフレ

二、高き自覚に溢る意気
確き自信に腕の業
若き健児が鍛え得し
稜々気骨の血は躍る
フレフレ

三、汚穢紛々の文明に
憂国義憤の人あらば
血潮と汗に清らけき
巴の健児が誠きけ
フレフレ

四、春妖香の霞わけ
秋壮烈の霜を踏み
集いて健児紫旗影に
永久の団結歌うなり
フレ機械フレ機械
フレ機械フレ機械
フレ機械フレ機械
フレ機械フレ機械

平成 26 年度 巴会 理事会・総会のご案内

日時：平成 26 年 6 月 21 日（土）

場所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室

理事会・総会 14:00～14:50

講演会 15:00～16:00

演題：「機械の目：コンピュータビジョンの新たな挑戦」

講師：名古屋工業大学 情報工学科 佐藤 淳 教授（S59）

懇親会 16:10～

（校友会館 1 階 カフェサラ にて）

会費：OB・OG 5,000 円、学生 500 円

（懇親会に出席される方）

ただし、ご卒業後 5 年以内、
10 年目（平成 16（2004）年
卒）、40 年目（昭和 49
（1974）年卒）の OB・
OG に関しましては、
特別に 3,000 円とします。

お誘い合わせの上、是非、
ご参加下さい。

申込：ハガキまたは電子メールにて
6 月 6 日（金）までにお申し込み下さい。

宛先：〒466-8555 名古屋工業大学 ながれ領域
巴会庶務担当 長谷川 豊

電話：052-735-5564（直通）

E-mail：hasegawa.yutaka@nitech.ac.jp

※自家用車の乗り入れは、なるべくご遠慮下さい。



巴会総会付随行事 [平成 26 年 6 月 21 日（土）]

○研究室解放：12:30～13:20

1. 熱移動工学研究室（担当：田川教授、保浦准教授） 12号館 1 階熱工学実験室
内容：「伝熱および物質輸送現象に関する実験設備の紹介」
2. 機械制御研究室（担当：山田教授） 3号館 10 階 1001 室
内容：「飛行ロボットと車両ロボットの自動制御に関する研究の紹介」

○フォーミュラカー見学：13:30～13:50 11号館 1 階 107号室

学生製作のフォーミュラカー見学（プロジェクトリーダー：機械工学科 4 年生 澤木 勇佑 君）

上記の付随行事に参加希望の方は、時間内に総会受付（3号館 2 階 0321 講義室）にお越し頂ければご案内します。なお、本年はオープンキャンパスと同時開催ではありません。